鋸山 日本寺の由来

日本寺は今から約千三百年前、聖武天皇の勅諚と、光明皇后のおことばをうけて、神亀二年(六月九日西暦七二五年)高僧行基菩薩によって開かれた関東最古の勅願所です。正しくは「鋸坤山日本寺」と称し、時に帝よりはわが国の国号を冠する「日本寺」の勅額、宸翰ならびに黄金五千貫、三十三観音の輪宝および御帳料綿錦十匹を賜りました。

初めは法相宗に属し、次いで天台、真言宗を経て徳川二代将軍秀忠公治世の時、曹洞禅宗となって今日に及んでいます。現存の古碑にあるように、かつては伽藍堂、十二院、百坊を完備して、良弁僧正、慈覚大師、弘法大師などの名僧が訪れ修行した我が国でもまれにみる古道場です。本尊の薬師瑠璃光如来は日本三薬師の随一として尊敬を集め、江戸時代の最盛期には実に三百万人講の名をもって東海千五百羅漢彫刻の大工事が行われました。

日本一の大仏さま

昭和四十一年六月、四ヵ年にわたる復元工事によって再現された名実ともに日本最大の大仏さまです。

原型は天明三年(一七八三)に、大野甚五郎英舎が門弟二十名ともに三ヵ年を費して現在の地に彫刻完成したものです。当時は御丈八、台座と九丈二尺あり、天下に比類のない大仏さまとして、その偉容を知られていましたが、江戸時代末期になって、自然の風触による著しい崩壊がみられ、昭和四十一年に至るまで荒廃にまかされておりました。

この大仏さまは、正しくは「薬師瑠璃光如来」と称し、宇宙全体が蓮華蔵世界たる浄土であることを現わしたもので、世界浄土であることを現わしたもので、建立されたものです。

東海千五百羅漢

当山曹洞禅宗九世、高僧悉伝禅師の発願により、上総桜井(現木更津市)の名工、大野甚五郎英舎が安永八年(一七七九年)から寛政十年(一七九八年)に至る前後二十一年間、門弟二十七名とともに生涯をかけて千五百五十三体の石仏を彫刻み、太古よりの風蝕によってできた岩窟霊洞の間に安置し奉ったものです。これは昔に、らくらくものがなかないわれた中華民国鋸山世界第一の羅漢霊場として遠く海外にも知られています。海を経て伊豆から運ばれた石材に、真心をこめて彫刻された千態万状の尊像は、すべて久遠の慈悲容を湛えて、見る人々に感銘を与えます。当山の宝物ともいうべき名品です。わが国の文化財としてもかけがえのない存在です。

「拝しても拝しても拝しきれない」ほどの、荒廃したままの現在に至り、「羅漢様お首つなぎ」を初め、全山の復興に努力しております。

百尺観音

昭和四十一年五月、六ヵ年の歳月を費して完成した大観音石像です。発願の趣旨は、一つには世界戦争戦死病没難産者供養のため、また、つぎには、近年激増する東京湾周辺の航海、航空、陸上交通機往来のため、また、これを地域とする大観音像は、交通安全の守り本尊として、多くの人々の尊崇を集めています。

名勝鋸山

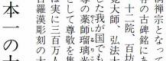
当山の万余坪(33万㎡)の境内地は景勝指定名の名勝で、十八勝、三十六景など数多くの名の秘境に富み、月輪・峰の大仏観、富士を絶景下に東京湾を始め、全関東を一望にするこの頂上の大景観とともにその美しさは言葉ではいい尽くせません。絶てを鑑賞するには二日を要するともいわれるほどです。また、すぐれた景観だけではなく、学術的にも貴重な存在です。山中の地質、動植物の調査研究するものには「天然の大博物館」として注目されています。

平成元年五月、インド国政府より、日印親善の世界平和を祈念して、釈尊の聖地、ブッダガヤの聖菩提樹の分木が日本寺へ贈られ、大仏広場に植えられております。

聖菩提樹

尊は、さまざまな願いがかなえられると尊崇を集め、大勢の氏名を書いた小さなお地蔵さまが、無数に奉納されています。

大仏さま 大きさくらべ



日本寺大仏の主な寸法

お願い地蔵尊

大仏広場に安置されているお願い地蔵

鋸山日本寺案内図

金谷港
東京湾フェリー
久里浜ー金谷
金谷駅
浜金谷駅
鋸山登山口
浅間神社
世界四大聖地
地獄のぞき
山頂展望台
十州一覧台
ロープウェイ
鋸山ロープウェイ
鋸山展望台
金谷十二山
比丘尼禅房
西口管理所
有料道路専用
山頂駐車場
西口
目山
目動車道(有料)
鋸山
東口
東口管理所
千五百羅漢道
百尺観音
百尺観音
大仏
大仏前参道
大仏広場
大仏
大仏
大仏